



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年8月13日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:2名

指導員:6名

テーマ 林の中で花と虫を見よう

名古屋で39℃を超える猛暑になるとの予報で、陽射しを遮るものがない川原を避け、林の中のコースを回りました。

遠くで鳴いているクマゼミの声に混じって、ニイニゼミ、アブラゼミ、さらに何となく秋を感じさせるツクツクボウシの声が聞こえてきました。そういえば、この夏はアブラゼミの鳴声も、木の幹に止まっている姿も、抜け殻も例年より少ないような気がします。

コナラやクヌギの林には、樹液を求めてサトキマダラヒカゲが集まり、コクワガタの姿も見られました。歩いていると、未熟なドングリと数枚の葉のついたコナラの小枝が落ちてきました。殻斗の部分に針で突いたような小さな穴があいています。ハイロチョッキリがドングリに卵を産み付けてから、小枝を切り落としたものです。なぜ、枝につけたままにしないで切り落とすのか話題になりました。

大野極楽寺公園では下見の時(8/6)に10株ほどオレンジ色の花を咲かせていたキツネノカミソリ(ヒガンバナ科)を見ましたが、花が残っていたのは1株だけで、他は既に実になっていました。ここで観察会を始めて9年目ですが、初めてキツネノカミソリに気づきました。花が咲いている期間が短く、葉や実だけでは目立たず、見落としていたものと思われます。それにしても、尾張部には自生地らしいところは少ないのに、どうしてここに生育するようになったのでしょうか。その近くにウバユリ(ユリ科)が群生していますが、これも花はおおむね終わり、花が残っていたのは2株だけでした。また、138タワーパークでは竹藪の縁でフジカンゾウ(マメ科)が咲いていました。漢字で書くと藤甘草で、花が藤に、奇数羽状複葉の葉が甘草(マメ科)に似ていることから名付けられたということです。来月には巨大ヌスビトハギといった感じの実が見られるはずですが。

このコースでは、8月に早くもヒガンバナが咲いていることが多いのですが、今回も花が散って、花茎だけが残っている株が見られました。「暑い、暑い」と言っているけど、秋近しいということですね。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花: ツルドクダミ、コマツヨイグサ、アレチハナガサ、キツネノマゴ、ツユクサ、ヤブミョウガ、ミソハギ、メリケンムグラ、オミナエシ、ノアザミ

虫: ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ヤブキリ、ヒガシキリギリス(声)、ハラビロカマキリ、キマダラカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、マルカメムシ、ベッコウハゴロモ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、チョウトンボ、ショウジョウトンボ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ツマグロヒユモン、ツバメシジミ、ヒメウラナミジャノメ、チャバネセセリ、ウリハムシ、クロウリハムシ、コフキゾウムシ

鳥: チョウゲンボウ、トビ、キジバト、ヒヨドリ、ハシボソガラス



(ハイロチョッキリが切り落とした小枝を観察)



樹液酒場のコクワガタ



なぜここにキツネノカミソリ



ウバユリも咲いた



フジカンゾウの花